

平成28年10月14日

## 平成28年度 第1回「学校関係者評価委員会」中間報告

### 1 概要

(1) 日時 10月14日(金) 15時30分～17時00分

(2) 場所 広島城北中・高等学校 第2会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員	三田真由美(戸坂城山小学校校長) 丹孝子(戸坂中学校校長) 佐伯祐司(広島城北高等学校同窓会副会長) 佐藤和順(広島城北中・高等学校PTA会長)
教職員	岩本校長 藤田副校長 中川教頭 二宮総務部長 大下教務部長 村上進路指導部長 勝間教諭(宮本生徒部長代理) 亀田入試広報部長 ブランチ国際部長

### 2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介後、各部から学校経営計画に沿って現状を報告した。

(1) 教務部より

- タブレット端末を活用した「eラーニング」を開始したことについて
- 鯉昇館の設備を活用した自習室を開設する検討をはじめることについて
- アクティブラーニング型授業等の授業改善に関することについて
- 既存の教室におけるICT機器の活用による授業改善について
- 「生徒の力を引き出す授業改善講座」等の教員研修について

(2) 生徒部より

- 自己管理のための生徒用スケジュール手帳の活用について
- 登下校中、公共交通機関内でのマナーについて
- 中・高合同の体育祭に向けた今年度の取組内容について
- (3) 進路指導部より
  - 統一した「手帳」の利用方法と学習意欲の向上について
  - タブレット端末を活用した振り返り学習の状況について
  - 自習室の整備に向けた進捗状況について
  - 分掌を超えた横の連携を密にした取り組みを推進する必要性について
- (4) 入試広報部より
  - 平成29年度高校入試の内容改訂に係る情宣活動について
  - 学校案内会、入試説明会等に関するアンケートの分析結果について
- (5) 国際部より
  - グランドデザインに基づいた海外短期研修等の進捗状況について
  - 次年度に向けた国際交流推進事業の計画について
- (6) 総務部より
  - 相談体制の確立に向けた取組について
  - カウンセラーと学年会の連携等について
  - 生徒の帰属意識を高める学校行事の推進について

### 3 評価委員からの意見及び助言

- ① 昨年度の経営計画と比較すると、全体的にすっきりとスリム感が出ているが、達成目標に対する評価か、行動計画に対する評価なのかが、やや曖昧になっており、改善・検討の余地がある。
- ② 国際部の取組として海外語学研修などあるが、テロ対策や海外における安全という観点からの工夫をしているのか。
  - ヨーロッパ（イギリス研修）では都市部（ロンドン観光）を避けて、ヘルシンキから目的地に入るというルート変更を行った。
- ③ 国際部のグランドデザインの中で、現時点において終了していないものはどのようなものがあるのか。
  - 本校は、AFS（高校生の国際交流事業を行う公益財団法人）の指定校となっているが、この団体の仲介による長期の留学生（約1年間）の引き受けができていない。

- ホームページへの掲載において、今少しタイムリーに情報を提供することが課題である。
- ④ 育てようとする生徒像が示されているのは評価したいが、達成目標とは生徒の姿が表記されるべきで、達成目標と行動計画の内容を整理すると良いのではないか。
- ⑤ 「21世紀型教育改革」においても、どういう行動を起こすのかということとをさらに具体的に表現したらどうだろうか。そのことが城北としての先進的な取り組みを発信することに繋がっていくと思う。
- ⑥ (城北高校を志望する生徒を持つ) 中学校の代表としては高校入試に「専願制」が導入されたことは、喜ばしいニュースとして受け止めている。
- ⑦ 前回と比較して各手立ての進捗状況が分かりやすくなっていると思う。
- ⑧ 説明や進捗状況あるいは達成状況を聞くと、自己評価が低すぎるのではないだろうか。内容は分かりやすくなったが、第三者にも判断できる「評価指標」を今少し具体的に設けて欲しい。
- ⑨ 保護者の一員として、今年度の高校体育祭の復活や、文化祭における卒業生をパネリストとしたパネルディスカッションは好感が持てたし、周りの保護者の印象も評価が高い。
- ⑩ これからは「非認知能力」を育てることが強く求められている。そうした観点からの取り組みを学校評価に含める必要が一層強くなると思う。
- ⑪ 各種研修会をもって、先生方が研修を積まれることは保護者としてありがたいことだが、回数を多くすることによって、先生方のワークライフバランスが崩れないようにお願いしたい。